
第 119 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2006 年 7 月 21 日(金) 15 時 00 分~16 時 30 分

時間が変更になりました。

場 所: 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 岩槻 健 氏 (米国マウントシナイ医科大学・助手)

タイトル: 味乳頭形成期における Wnt-Shh の相互作用

Shh と Wnt の両シグナルは様々な組織や器官の発生に必須であると同時に、幹細胞の維持やガン化に重要な役割を果たしている。味乳頭の発生においても、Shh シグナルは味乳頭のパターンニングや大きさを決定する重要なシグナルである。一方、味乳頭の発生時における Wnt シグナルについては、ほとんど研究されていない。我々は、Wnt シグナルに注目し、味乳頭の発生における Wnt シグナルを解析すると同時に Shh と Wnt の相互作用を調べている。

Topgal レポーターマウス(DasGupta and Fuchs, 1999)を用いた解析と Wnt 関連分子のスクリーニングにより、味乳頭の発生時に Wnt/ β -catenin シグナル伝達系が活性化される事が明らかとなった。このとき Shh の発現を調べると、Topgal マウスにおける LacZ 発現部位と一致しており、両者の相互作用が示唆された。現在マウス胎仔舌の組織培養系と種々の遺伝子改変マウスを用いて Wnt と Shh の相互作用を解析している。これまでの結果から、味乳頭の発生において Wnt/ β -catenin シグナルが Shh と連携し、味乳頭の発生を調節しているというモデルを提案したい。

担当: 硬組織疾患制御再建学講座 小林 泰 浩